

イエス・キリストの黙示

1. 書名
2. 著者
3. 受取人、場所、状況
4. 執筆年代
5. 正典性
6. 黙示文学
7. 神学
8. 内容と目的
9. 旧約聖書とのつながりと象徴
10. 解釈の学派
11. 構造と区分
12. 大まかな区分
13. 構造：連続性と並行性
14. 五つの幻の系列に見る並行性
15. 詳しい区分
16. 黙示録の構成の一つの可能性
17. (不) 聖なる三位一体 12～14章
18. 黙示録におけるキリストとその御名
19. 始まりと終わり——モーセとヨハネ
20. 参照した注解書

屠られた小羊、
ユダ族から出た獅子、
そして竜



人を幸いにする書
礼拝を受けるにふさわしいのはだれか
世界の王はだれか
再び来られる主
教会のための希望
小羊の勝利
すぐに起こるはずのこと
王の帰還
教会への慰め
万物の目標

預言は憶測のためではなく、
動機づけのためにある！

黙示録は、覆いを取り除くために与えられた！

1. 書名

この書の書名は、書の最初の三つの言葉、「イエス・キリストの黙示」です。ギリシア語では「黙示」は「アポカリュプシス」と言います。これは、覆い・ベールを取り除くこと、つまり「覆いを取り去って明らかにすること（啓示）」を意味します。それはイエス・キリストご自身によってしか起こりえません。そしてこの書は、イエス・キリストについての啓示でもあります。キリストがどのような方であり、何をなさり、これから何をなさるのかについての啓示です。

多くの人は、この書を他の聖書の書ほど重んじてきませんでした。暗くて隠されたものに思えたからです。けれども、黙示録（以下、単に「黙示録」と記します）の意図はその反対です。すなわち、覆いを取り去ること、光を当てること、そして励ますことです。それは読む人（理解する人だけではありません）と、それを守る人、つまりしっかり保ち、行う人のためです（1:3）。黙示録は「好奇心の強い人」のためではなく、「しもべ」のための書なのです！

2. 著者

著者は自分を、ヨハネ、苦難をともにする兄弟であり仲間であると紹介しています（1:4、9、22:8）。けれども、自分自身についてはほとんど「啓示」していません。イエスの弟子であり使徒であるヨハネ以外のだれが、これほど当然のように諸教会に自己紹介できたのでしょうか。殉教者ユスティノス（Justin der Märtyrer、紀元100～165年）とエイレナイオス（Irenäus、115～202年）は、イエスの弟子であり使徒であるヨハネが著者であると証言しています。

しかし早い時期から、このことは疑問視されました。黙示録と福音書や手紙とでは、文体や言葉づかいがあまりに違うというのです。違いはあっても、一致点もあります。違いがあるからといって、必ずしも同じ著者ではないということの証明にはなりません。

ヨハネという名前は「神は恵み深い与え主である」という意味です。イエスは彼を、その兄弟ヤコブとともに「雷の子ら」と呼ばれました（マルコ3:17）。この二つの意味は、どちらも彼の書いたものの中で存分に表れています。

ヨハネは長生きし、晩年はおそらくパウロの死後エペソにいました。ヨハネが殉教したのか、それとも高齢で「自然な」死を迎えたのかは、証明されていません。伝承によれば、彼はローマで煮えたぎる油の中に浸される苦しみを受けましたが、無傷で生き延びたとされ、その結果、エーゲ海のパトモス島に流刑にされたといわれます。そこから彼はエペソに戻りました。

3. 受取人、場所、状況

受取人は、小アジアにある七つの地域教会です（2～3章）。それぞれの教会が黙示録全体の完全な写しを受け取ったのか、それとも自分あての手紙の部分だけを受け取ったのか、という問いもあるでしょう。

受取人たちは、ヨハネと同じように、一部は迫害と困難の中にあり、異教（グノーシス主義）やユダヤ教からの誤った教えや影響と戦わなければなりません。迫害は波のように起こり、いつでもどこでも同じように激しかったわけではありません。それでも、1世紀と2世紀には、国家と教会の間によそよそしい空気があったことは明らかです。

当時、新約聖書のどの手紙も、黙示録ほど熱心に読まれたものはなかっただろうと言われます。黙示録は、慰めと励ましとして教会の心に語りかけたからです。このことは私たちを奮い立たせます。私たちも、この手紙を熱心に読むことで、大きな祝福を体験することができるのです。

黙示録が書かれたパトモスから、黙示録は七つの教会へ送られました。一人または複数の使者によって、当時の普通の道を通して運ばれたのです。

4. 執筆年代

新約聖書で最も長いこの手紙の執筆年代については、二つの意見があります。早い年代をとる説は、ネロの治世（54～68年）に置きます。ヨハネはエルサレムの神殿を測るように命じられているので、それは70年に神殿が破壊される前でなければならない、というのです。

より多くの解釈者は、年代をずっと後のドミティアヌスの治世（81～96年）に置いています。エイレナイオスもそうです。彼はポリュカルポス（Polykarp）の弟子であり、ポリュカルポス自身はヨハネの弟子でした。ドミティアヌスは、皇帝崇拝を行った最初の皇帝で、自分を主であり神（Dominus et Deus）として礼拝させました。ヨハネはこの皇帝崇拝に対して、生ける神と小羊へのまことの礼拝を対置しています。

執筆年代は、黙示録をどの解釈の学派で解釈するかとも関係しています。そのため、過去主義者（プレテリスト）や後千年王国論者は、当然のこととして早い年代を好みます。

5. 正典性

全部で27の書と手紙からなる新約聖書の正典の中で、黙示録が最後に置かれているのは正当なことです。新約聖書で唯一の預言書として、黙示録は執筆時点から見て未来にあることを扱っています。

黙示録の真正性、使徒による著作、したがって靈感は、比較的早い時期（2世紀後半）に、黙示録が新約聖書の正典の中で認められた位置を占めることにつながりました。もしかすると、七つの教会に素早く広まったことが、それを後押ししたのかもしれませんが。一方で、東方教会では、黙示録が認められるまでに12世紀までかかりました。主な疑いは、黙示録の著者がヨハネの福音書とは別の（知られていない、あるいは確認されていない）人物だという想定にありました。文体

が違うことは広く認められており、別々の著者がいたと推測させるかもしれません。言葉の違いは、さまざまな理由で説明できます。ヨハネはアラム語を話しており、黙示録を早い時期に書いたのに対して、福音書は「より良い」ギリシア語で書いた。あるいは、ギリシア語のよくできる筆者、またはギリシア人の筆記者がいて、ヨハネの言葉を整えた。黙示録の違った文体は意図的なものであり、その違いは「黙示文学」という性格から見て、意図されたものなのです。

6. 黙示文学

聖書以外のユダヤ教の黙示文学は、紀元前2世紀から紀元2世紀までユダヤ教の中で広まり、好まれていた書き方、文学の様式です。これらの文書は、絵や象徴、天的な存在や闇の存在を用いました。そして、より良い時代を予告することによって、困難な時代のための励ましとなることを目指していました。著者は偽名を用いました（エノク、アブラハム、バルク、エズラなど）。

一定の一致があることは見誤りようがありません。この靈感を受けた手紙の文学様式は黙示的であり、読者にとっては知っているもの、なじみのあるものとして受け取られました。それでも、ユダヤ教の黙示文学との違いは大きすぎて、黙示録をそこに分類することはできません。著者は自分の名を明かし、啓示の源としてイエス・キリストを引き合いに出しています。その内容は唯一無二です。それはユダヤ教的ではなく、キリスト教的です。この書の黙示は、主イエス・キリストという人格に結びついているのです。

7. 神学

黙示録の神学は、他の手紙、たとえヨハネ自身の手紙やパウロやペテロの手紙に見られるものとも違ってきます。黙示録では、神学は視覚的な神学、つまり「見ること」の中にあります。聞く人は、嵐の中へ、火の中へ、地震の中へ、痛みの中へ、冒瀆と狂乱の中へと連れて行かれます。黙示録の神学は新約聖書の教えに基づいていますが、特に幻の中では旧約聖書に基づいています。黙示録は旧約聖書の象徴に直接つながり、それを完成に至るまで推し進めます。

8. 内容と目的

神の救いは、ただ個人的な、一人ひとりの事柄ではありません。黙示録は、神がその御子イエス・キリストによって地（宇宙）を再び所有し、「奪還する」という主権的なご計画を明らかにしています。黙示録は、そのご計画が新しい創造において完成するところまで導きます。そこに至る道が、新約聖書の他のどの手紙にもないほどに描かれています。それでも黙示録には、詳細な「終末の時刻表」は含まれていません。

読者、すなわち信仰者にとっての黙示録の目的を、黙示録自身が述べています。正しい者はますます正しいことを行い、聖なる者は（その言葉と行いにおいて）ますます聖なる者となりなさい（22:11）。

この書の目的は、慰めと励ましです。黙示録は私たちに確信を与えます。神の御座は揺るがずに立っており、神がそこに座っておられ、その御座は沈黙しておらず、ご計画を持っておられるので

す。神はそこから、力強く、効果的に世界の出来事に介入し、罪と不義に終わりをもたらし、罪人を罰せられます。「いつまでもこのまま続くのだろうか」という問いに、黙示録は確信をもって答えます。いいえ！ 神と小羊が勝利されるのです。けれども主が現れるまでは、キリスト者にとって勝利ではなく敗北のように見えるでしょう。多くの人が殉教者として死ぬからです。しかし、彼らの死こそが彼らの勝利なのです。小羊がご自分の死によって勝利されたのと同じように。

この展望と、この手紙を通して示される神の御子の啓示とが、今苦しんでいる教会を、神と小羊への礼拝へと導きます。ここに大きな違いがあります。地に住む者たちは偶像を拝みますが、キリスト者は小羊を礼拝するのです。

9. 旧約聖書とのつながりと象徴

黙示録は、旧約聖書の光に照らして初めて意味をなします。黙示録には、旧約聖書全体への言及が500以上あります（ただし直接の引用はありません）。ヨハネが最も多く言及しているのはダニエル書、イザヤ書、エゼキエル書、そして出エジプト記です。

黙示録の象徴的な言葉は明確であり、その大部分は――すべてではありませんが――旧約聖書に基づいています。

- 他の聖書の書によって説明できる象徴
- 黙示録自身の中で説明されている象徴
- 黙示録の文脈から説明できる象徴
- 他の（あるいは外部の）資料によって説明できる象徴

10. 解釈の学派

教会の歴史の中で、黙示録についてのさまざまな見方がはっきりと形づくられてきました。そのため今日では、解釈の学派について語ることができます。それらは根本的に、ヨハネが書いている事柄や出来事を時間的にどこに位置づけるかによって異なります。同じように、またその結果として、象徴の解釈にも違いがあります。この解釈は控えめに、慎重に行わなければなりません。いくつかの象徴については、その解釈を100パーセント確かに知る手段が私たちにはないからです。

- **過去主義的解釈**（同時代史的）：預言はすでにヨハネの時代に成就している。たとえば、獣と666という数字はネロという人物において成就した。
- **歴史主義的解釈**：預言の成就を教会の歴史全体の流れの中に探し、解釈する（たとえばルター、その他の宗教改革者たち、アイザック・ニュートン）。
- **未来主義的解釈**（終末史的）：ほとんどの預言は、ヨハネの視点から見ても、2012年の私たちの視点から見ても、これから成就する。それは、キリストがすべての人に見える形で再び来られる直前の時代においてである（たとえばJ. N. ダービー [J.N. Darby]、C. I. スコフィールド

〔C.I. Scofield〕、ウォルヴード〔Walvoord〕、ライリー〔Ryrie〕、ハル・リンゼイ〔Hal Lindsay〕。特にディスペンセーション主義の見方)。

- **観念的解釈** (超歴史的)：預言は歴史上の出来事を描いているのではなく、神が悪しき者と悪とに勝利されることを、特別な仕方でも繰り返して表現している。
- **救済史的解釈**：この解釈は一つのモデルに縛られず、それぞれの本文を、その本文に最もよく合う仕方でも解釈しようとする。そのため、この解釈の仕方では、前の四つの方法すべてが用いられるが、一つの解釈モデルに奴隷のように縛られることはない (T. ツァーン〔T. Zahn〕、O. クルマン〔O. Cullmann〕、G. E. ラッド〔G.E. Ladd〕)。根本的には、歴史はその目標から見られている。キリストの来臨は未来の転換点であり、古いものを終わらせ、新しいものを始めるのである。

完全を期すために、個々の解釈の学派に加えて、千年王国についてのさまざまな見解にも触れておかなければなりません。これらもまた、上に述べた解釈の学派と関係しています。

無千年王国論：千年王国は霊的なものとして、またイエスの昇天以来すでに存在している (実現している) ものとして解釈されます。そしてイエスの将来の来臨とともに、新しい創造が始まります。

後千年王国論：千年王国は、福音が広まることによって、長い期間をかけて外的な形で生まれ、再び来られるキリストに引き渡されます。

前千年王国論：千年王国はイエスの来臨、メシアの到来とともに始まります。それは完全に未来のものであり、文字どおりに理解すべきものです。前千年王国論の中には、この見解を基本的に主張する二つの方向があります。

1. ディスペンセーション主義 (最も広まっているもの)：この平和の王国において、霊的に回復された民族としてのイスラエルの民に、すべての約束が成就する。そのときエルサレムには神殿といけにえの礼拝があり、メシアはそこから世界を支配する。教会はキリストとともに治める。黙示録の4～19章は、もっぱら教会の携挙の後の時代、すなわち7年間の患難時代を描いている。
2. 古典的または歴史的前千年王国論：最初のキリスト者たちは、未来の平和の王国と、その前に現れる反キリストによる支配とキリスト者への抑圧を待ち望んでいた。黙示録は未来の出来事を描いているが、それは主の来臨に至るまでの教会の歴史全体にかかわっており、携挙もその来臨のときに起こる。

この図は前千年王国論の見解を示しています。

(図：左から右への時間軸)

- 1. キリストの来臨 (十字架、上向きの矢印)
- 教会の時代
- 患難
- 2. キリストの来臨 (下向きの矢印)

- 千年期——千年王国

11. 構造と区分

このテーマについては、多くの提案があります。区分の違いは、さまざまな視点や側面に基づいています。それらは、重点、テーマ、クライマックス、文学的構造、挿入句、中断、数字、その他の基準に従っています。

いずれにせよ、区分の仕方と、本文全体の構造をたどることが、この書をどう理解するかに関わってきます。その意味で、ここでは徹底した（個人的な）取り組みがとても役に立ちます。

多くの解釈者は、1章19節に区分の鍵を見えています。キリストはヨハネにこう言われます。

それゆえ、書き記せ。

1. あなたが見たこと	栄光のキリストの幻、1:12～20
2. 今あること	小アジアの七つの教会、1世紀、2章と3章
3. この後に起ころうとしていること	4章から、あるいは6章から、1世紀以降

これによって、黙示録を大まかに二つの部分に分けることができます。

1. 1～3章（ヨハネが見たもの、すなわちキリスト、そして見たもの、すなわち諸教会）
2. 4～22章（新しい創造の完成に至るまでの天の幻）

そもそもヨハネがこの節で黙示録の「二部構成」や「三部構成」を示そうとしているのかどうかは、解釈者の間でもはっきりしていません。この節を単純に説明すれば、二つや三つの（時間の）単位を指しているのではなく、単に、新約聖書が「終わりの日」と呼ぶ時代全体を指しています。それはすでにイエスの最初の来臨とともに始まり、主イエスが最後に、二度目に来られるときまで続きます。

G. K. ビール (G. K. Beale) は、これに関して注目すべき指摘をしています。「(19節の) 結びの部分 (この後に起ころうとしていること) は、おそらくダニエル書2章28、29、45節への意識的な暗示である。それは元の文脈では、全地を満たすことになる神の王国の幻の、終末論的な枠組みと射程に関わっている。ダニエル書2章28節と29節では、『終わりの日』という表現が『これらの事の後』と同義に用いられている。『これらの事の後』が一般的な終末論的（終末の、あるいは最後の）時代を表すのに用いられているのなら、1章19節はそのような狭い年代的な公式を表すことはできない。それはおそらく、その始まりを過去に含むと同時に、現在と未来をも含む終末の時代を指しているであろう。」

簡潔でわかりやすい区分では、黙示録を四つの部分に分けます。最初と最後の部分は手紙の冒頭と手紙の結びであり、その間に二つの主要部分が置かれています。

12. 大まかな区分

手紙の冒頭 1:1～8

第一の主要部分：

地上での幻：人の子と、七つの教会への七つのメッセージ 1:9～3:21

人の子と七つの金の燭台の幻 1:9～20

七つの教会への七つのメッセージの口述 2:1～3:21

第二の主要部分：

天における幻：「この後に起ころうとしていること」 4:1～22:5

- 第一の幻の系列：神の天の玉座の間、七つの封印 4:1～8:1
- 第二の幻の系列：七つのラッパ 8:(1)2～11:19
- 第三の幻の系列：さまざまな幻（女と子ども、竜、ミカエル、海から上る獣と地から上る獣）と歴史的な細部 11:19～15:4
- 第四の幻の系列：七つの御怒りの鉢、あるいはさばきの鉢 15:5～19:10
- 補足の幻：大淫婦バビロン 17:1～19:10
- 第五の幻の系列：神の勝利と終わりのさばき 19:11～22:5
- 補足の幻：小羊の花嫁——新しい創造 21:9～22:5

手紙の結び 22:6～21

13. 構造：連続性と並行性

意味のある区分を探すうえで重要な問いの一つは、描かれている出来事の時間的な流れです。

一つの見方は、黙示録のすべての出来事を、年代順に次々と起こるものと考えます。

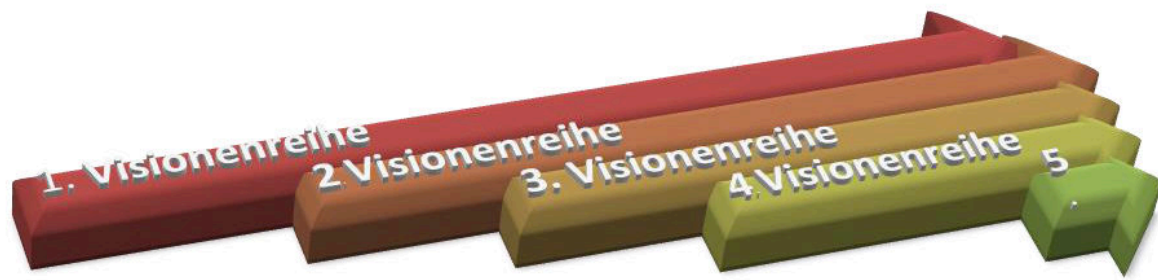
別の見方は、黙示録の主要部分を、並行して進むいくつかのサイクルについて語っているものと考えます。それらは単なる繰り返しではありません。説明のための挿入部分によって何度も中断されながら進む幻の系列であって、キリスト教の時代全体を含みうるものです。それらがどこから始まるのかを、正確に確信をもって言うことはできません。けれども、その終わりはいつも主イエス・キリストの現れです。

年代順の連続ではなく、このような並行性を、何によって根拠づけることができるでしょうか。

次の表に示すように、目立った一致が見られます。最も本質的なのは、本文の中で何度も主イエス・キリストの来臨が語られていることです。この出来事が最も集中的に描かれるのは19章12節になってからですが、それより前にもすでに何度も詳しく取り上げられています。この来臨と、それに続く神への賛美とが、それぞれの幻の系列を締めくくる目標点・定点となっており、並行的な区分を意味あるものにしています。

14. 五つの幻の系列に見る並行性

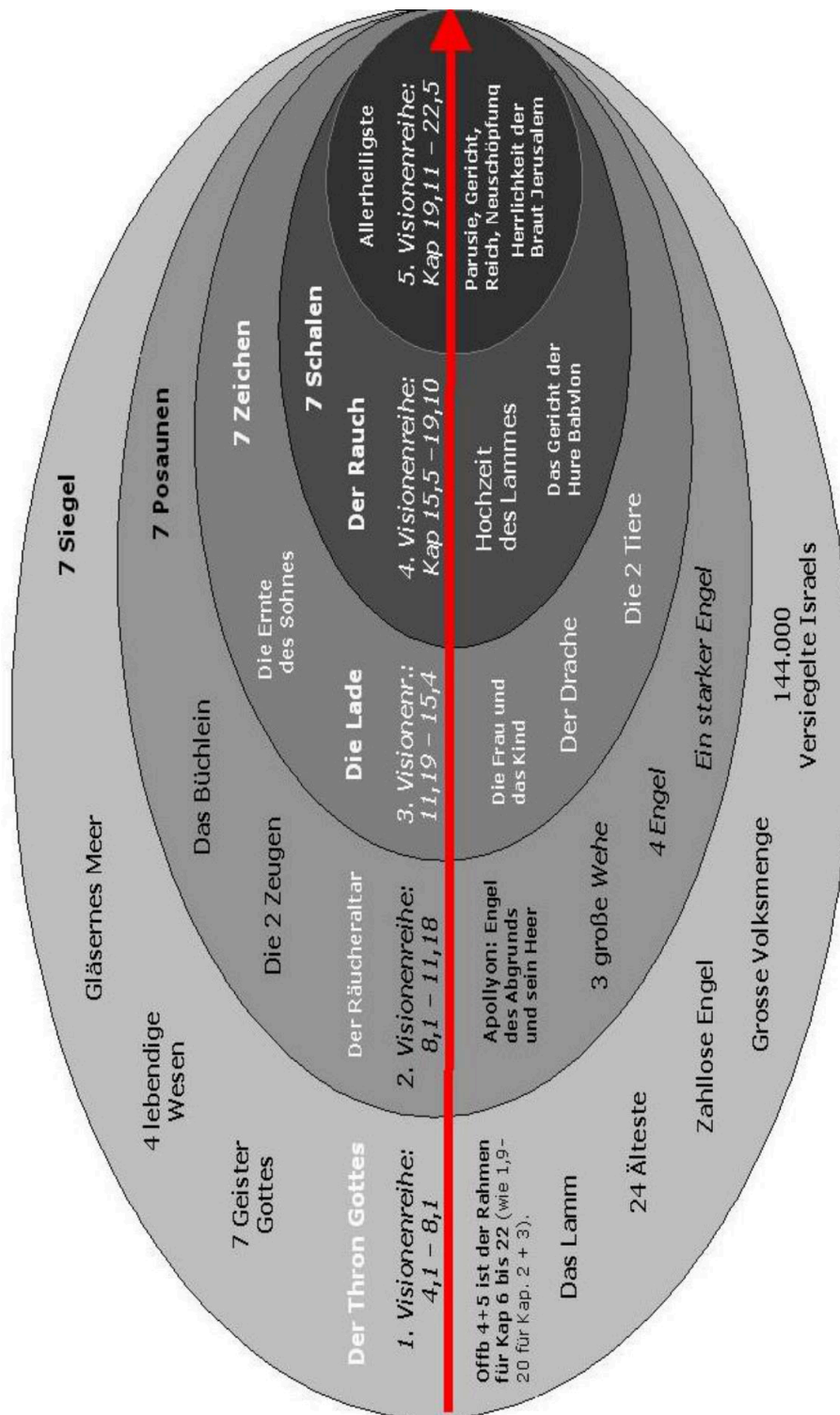
4:1～8:1	8:1～11:18	11:19～15:4	15:5～19:10	19:11～22:5
開かれる	開かれる	開かれる	開かれる	開かれる
一つの門 - 天において	第七の封印（今ようやく巻物が開かれる）；静けさ - 天において	神の聖所 - 天において	幕屋の聖所 - 天において	天
御座	金の香の祭壇	契約の箱	神の栄光と力から出る煙	誠実で真実な方
稲妻 声 雷	声 雷 稲妻 地震	稲妻 声 雷 地震 雹	稲妻 声 雷 最大の地震 最大の雹	主ご自身が自ら来られる
七つの封印	七つのラッパ	（七つのしるし／段落）	七つの鉢	七回の「また私は見た」
第六の封印： キリストの到来	第七のラッパ： キリストの到来	地の刈り入れ： キリストの到来	第七の鉢： キリストの到来	キリストの到来
挿入： 7章： 十四万四千人 大群衆	挿入： 10章、11章前半	挿入： 14章前半： 十四万四千人	長い付録： 大淫婦： バビロン	長い付録： 花嫁： 新しいエルサレム
7:11、12： 歓呼／礼拝 12節：賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、勢いが私たちの神に……	11:16以下： 歓呼／礼拝 17節：……主よ、全能者なる神よ、……あなたが大いなる力を取って……	15:3以下： 歓呼／礼拝 3節：主よ、全能者なる神よ、あなたのみわざは偉大で驚くべきものです……	19:1以下： 歓呼／礼拝 1節：救いと栄光と誉れと力は、私たちの神である主のもの	
7:17：御座の中央におられる小羊が……彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださる	11:17以下：あなたは王として治め始められました ……あなたのしもべたちに報いを与える	15:3以下：聖徒たちの王〔であるあなた〕 ……すべての国々の民は来て、あなたの前にひれ伏します	19:6：主が王と なられた ……9節：小羊の婚宴に招かれて いる者たちは幸いだ	22:3：神と小羊の御座が…… 5節：[神のしもべたちは] 世々限りなく王として治める



（図：段違いに並んだ五本の矢印。すべて同じ目標に向かっていて、最初の矢印が最も長く、後のものほど遅れて始まる：）

- 1. 幻の系列
- 2 幻の系列
- 3. 幻の系列
- 4 幻の系列
- 5

Die Gliederung der Offenbarung anhand der 5 Visionenreihen



五つの幻の系列による黙示録の区分

(図：入れ子になった五つの楕円。赤い矢印がいちばん外側の楕円からいちばん内側まで伸びている。外側から内側へ：)

- 七つの封印 — 神の御座 — 第一の幻の系列：4:1～8:1
- ガラスの海
- 四つの生き物
- 神の七つの御霊

- 黙示録4章と5章は、6章から22章までの枠組みである（1:9～20が2章と3章の枠組みであるのと同じように）。
- 小羊
- 二十四人の長老
- 数えきれない御使いたち
- 大群衆
- 証印を押されたイスラエルの十四万四千人
- **七つのラッパ** — 香の祭壇 — **第二の幻の系列：8:1～11:18**
- 小さな巻物
- 二人の証人
- **アポリュオン：底知れぬ所の御使いとその軍勢**
- 三つの大きなわざわい
- **四人の御使い**
- **一人の強い御使い**
- **七つのしるし** — **契約の箱** — **第三の幻の系列：11:19～15:4**
- 子の刈り入れ
- 女と子ども
- 竜
- 二匹の獣
- **七つの鉢** — **煙** — **第四の幻の系列：15:5～19:10**
- 小羊の婚宴
- 大淫婦バビロンへのさばき
- 至聖所 — **第五の幻の系列：19:11～22:5**
- 再臨（パルーシア）、さばき、王国、新しい創造
- 花嫁エルサレムの栄光

15. 詳しい区分

手紙の冒頭 1:1～8

1. 表題：1:1前半
2. 由来と目的：1:1、2
3. 祝福の言葉：1:3
4. あいさつ：1:4、5前半
5. 頌栄：1:5、6
6. 主題：1:7

7. 黙示録を本当に与えておられる方の自己紹介：1:8

第一の主要部分：地上での幻：人の子と、七つの教会への七つのメッセージ 1:9～3:21

七つの教会への七つのメッセージの口述への導入 1:9～20

1. ヨハネの外的な状況：1:9
2. 主の自己紹介とヨハネへの委託：1:10、11
3. 七つの燭台 1:12
4. 人の子：1:13～16
5. ヨハネの反応と主による励まし 1:17、18
6. 委託の繰り返し：1:19
7. 星と燭台の意味：1:20

I. エペソへ 2:1～7

1. あて名と自己紹介：2:1
2. 評価：2:2、3
3. 非難：2:4
4. 警告を伴う指示：2:5
5. 称賛：2:6
6. 聞くようにとの呼びかけ
7. 勝利を得る者への約束：2:7

II. スミルナへ 2:8～11

1. あて名と自己紹介：2:8
2. 評価：2:9
3. 励ましと備え：2:10前半
4. 指示：2:10
5. 報いの約束：2:10後半
6. 聞くようにとの一般的な呼びかけ：2:11前半
7. 勝利を得る者への約束：2:11後半

III. ペルガモンへ 2:12～17

1. あて名と自己紹介：2:12
2. 評価：2:13
3. 非難：2:14、15
4. 指示：2:16
5. さばきの警告：2:16

6. 聞くようにとの一般的な呼びかけ：2:17前半
7. 勝利を得る者への約束：2:17後半

IV. ティアティラへ 2:18～29

1. あて名と自己紹介：2:18
2. 評価：2:19
3. 非難：2:20、21
4. さばきの警告：2:22、23
5. 忠実な者たちへの励まし：2:24、25
6. 勝利を得る者への約束：2:26～28
7. 聞くようにとの一般的な呼びかけ：2:29

V. サルディスへ 3:1～6

1. あて名と自己紹介：3:1
2. 評価＝非難：3:1
3. 指示：3:2、3前半
4. さばきの警告：3:3後半
5. 忠実な者たちへの励まし：3:4
6. 勝利を得る者への約束：3:5
7. 聞くようにとの一般的な呼びかけ：3:6

VI. フィラデルフィアへ 3:7～13

1. あて名と自己紹介：3:7
2. 評価と慰め：3:8
3. 励まし（敵たちに関して）：3:8、9
4. 守りの約束：3:10
5. 指示：3:11
6. 勝利を得る者への約束：3:12
7. 聞くようにとの一般的な呼びかけ：3:13

VII. ラオディキアへ 3:14～21

1. あて名と自己紹介：3:14
2. 評価＝非難：3:15
3. さばきの警告：3:16～17
4. 指示：3:18～19
5. 忠実な者たちへの約束：3:20
6. 勝利を得る者への約束：3:21

7. 聞くようにとの一般的な呼びかけ：3:22

第二の主要部分：天における幻：「この後に起ころうとしていること」 4:1～22:5

I. 第一の幻の系列：七つの封印 4:1～8:1

七つの封印への導入：歴史の神とその周り 4:1～5:14

1. 天の門が開かれ、見る者が天に移される 4:1、2前半
2. 御座と御座に着いておられる方：4:2、3
3. 御座の周り：4:4～8
4. 二十四人の長老による、御座に着いておられる方への礼拝：4:9～11
5. 御座に着いておられる方の手にある巻物：5:1～5
6. 御座の中央におられる小羊：5:6、7
7. 小羊への礼拝：5:8～14

最初の六つの封印が解かれる 6:1～17

- 第一の封印：弓と勝利の冠：征服、勝利：6:1、2
- 第二の封印：大きな剣：戦争：6:3、4
- 第三の封印：秤：飢饉：6:5、6
- 第四の封印：死：剣と飢饉と（疫病による）死と野の獣によって殺す権威：6:7、8
- 第五の封印：祭壇の下に殉教者たちのたましい：6:9、11
- 第六の封印：揺り動かし：6:12、17

二つの挿入の幻 7:1～17

- 十四万四千人に証印が押される：7:1～8
- 御座の前の数えきれない群衆：7:9～17

第七の封印が解かれる 8:1

II. 第二の幻の系列：七つのラッパ 8:(1)2～11:19

七つのラッパへの導入 8:(1)2～6

- ラッパの御使いたちの登場：8:2
- 金の香炉を持つ御使い：8:3～5
- ラッパを吹く準備：8:6

最初の六つのラッパが吹き鳴らされる 8:7～9:21

- 第一のラッパ：地：住まいと植物の食物：8:7
- 第二のラッパ：海：漁業と交易：8:8、9
- 第三のラッパ：水：生きるために最も必要なもの：8:10、11

- 第四のラッパ：天体と、三つのわざわいの予告：8:13
- 第五のラッパ（第一のわざわい）と、さらに二つのわざわいの予告：9:1～12
- 第六のラッパ（第二のわざわい）：9:13～21

二つの挿入の幻 10:1～11:14

- 小さな巻物を持つ御使い：10:1～11
- 神殿の測量と、エルサレムの二人の証人：11:1～14

第七のラッパが吹き鳴らされる 11:15～18

- 第三のわざわいの予告：11:14
- 第七のラッパが吹き鳴らされる（第三のわざわい）：11:15前半
- 神の支配の告知：11:15中ほど
- 二十四人の長老による神への礼拝：11:16～18

III. 第三の幻の系列：追加の幻と歴史的な細部 11:19～15:4

導入：天の聖所が開かれる 11:19

1. 目に見えない宿敵についての幻：竜と女との戦い 12:1～17

- 第一の場面：生まれたばかりの子に対する竜の攻撃：12:1～6
- 第一のしるし：子を産む女：12:1、2
- 第二のしるし：女とその子を脅かす竜：12:3、4
- 子の誕生と守り：12:5
- 女の逃避と守り：12:6
- 第二の場面：天における竜のむなしい戦い：12:7～12
- 竜が打ち負かされ、地に落とされる：12:7～9
- 竜が打ち負かされたことへの天の歓呼：12:10～12
- 第三の場面：女とその子孫の残りの者たちに対する竜の攻撃：12:13～17
- 竜による女の迫害と女の守り：12:13～16
- 女の子孫の残りの者たちに対する竜の戦い：12:17

2. 目に見える宿敵についての幻：聖徒たちに対する獣の戦い 13:1～18

- 海から上って来る獣：13:1～10
- 描写：13:1～3
- 獣への礼拝：13:4
- 獣による神への冒瀆：13:5～6
- 聖徒たちに対する獣の戦い：13:7、8
- 聖徒たちへの忠実であれとの呼びかけ：13:9～10

- 地から上って来る獣：黙示録13:11～18
- 第二の獣の描写：13:11～14前半
- 第二の獣の教え：13:14～18

3. 目標の先取り：シオンの山で小羊とともにいる十四万四千人——そして彼らの歌 14:1～5

- 彼らの描写：14:1
- 彼らの歌：14:2、3
- 彼らがだれであるか：14:4、5

4. さばきを告げる三人の御使い 14:6～13

- 第一の御使い：永遠の福音：14:6、7
- 第二の御使い：バビロンは倒れた：14:8
- 第三の御使い：背教への警告：14:9～11
- 神の命令とイエスへの信仰を守るようにとの呼びかけ：14:12
- 今から後に死ぬ死者たちの幸い：14:13

5. 雲に乗った人の子と、呼びかける三人の御使い 14:14～20

- 地の穀物の刈り入れ：14:14～16
- 地のぶどうの収穫：14:17～20

6. 最後の災害を携えた七人の御使いの準備 15:1

7. 目標の二度目の先取り：ガラスの海のほとりで勝利を得た者たち——そして彼らの歌 15:2～4

- 勝利を得た者たち：15:2
- 勝利を得た者たちの歌：15:3、4

IV. 第四の幻の系列：七つの鉢（＝第七のラッパのさばきの締めくくり） 15:5～19:10

七つの鉢への導入 15:5～16:1

- あかしの幕屋の聖所が開かれる：15:5
- 七つの鉢を持つ七人の御使いの登場：15:6～8
- 七つの鉢を注ぐようにとの命令：16:1

最初の六つの鉢が注がれる 16:2～9

- 第一の鉢が注がれる：地：16:2
- 第二の鉢が注がれる：海：16:3
- 第三の鉢が注がれる：水：16:4～7
- 第四の鉢が注がれる：太陽：16:8、9
- 第五の鉢が注がれる：獣の帝国：16:10、11

- 第六の鉢が注がれる：ユーフラテス川：16:12

挿入の幻：戦いのための招集 16:13～16

- 王たちを集めるために汚れた霊どもが出て行く：16:13～14
- 間に入る叫び：目を覚ましている者の幸い：16:15
- ハルマゲドンでの戦いのための招集：16:16

第七の鉢が注がれる：空中 16:17～21

V. 第四の幻の系列への補足の幻：大淫婦——その偽りの栄光と倒壊 17:1～19:10

大淫婦と獣 17:1～18

- 導入：17:1～3
- 女の描写：17:3～6
- 女と獣についての説明：17:7～18

バビロンの滅亡 18:1～24

- 倒壊の告知：18:1～3
- そこから出て行き、その罪に報いよとの警告の言葉：18:4～7
- その災害の告知：18:8
- その倒壊を嘆く地に住む者たちの嘆き：18:9～19
- その倒壊の結果：18:21～24

バビロンの滅亡についての四つのハレルヤと、小羊の婚宴の告知 19:1～10

- 第一のハレルヤ：19:1、2
- 第二のハレルヤ：19:3
- 第三のハレルヤ：19:4、5
- 第四のハレルヤと小羊の婚宴の告知：19:6、7
- 小羊の婚宴の準備：19:8、9

見る者の反応 19:10

VI. 第五の幻の系列：神の勝利と終わりのさばき：19:11～22:5

1. イエス・キリストの再臨 19:11～16

- a. 天が開かれる：19:11前半
- b. 白い馬に乗った方：19:11
- c. 馬に乗った方の描写：19:12～16
- その目：19:12
- その冠：19:12

- その名：19:12
- その衣：19:13
- その本質を表す名：19:13
- その軍勢：19:14
- その剣：19:15
- その公式の称号：19:16

2. 神のさばきの宴の告知 19:17、18

3. 獣と偽預言者とその軍勢へのさばき 19:19～21

4. サタンへの暫定的なさばき 20:1～3

- a. 執行する者：20:1
- b. 執行：20:2、3前半
- c. 目的：20:3
- d. 時間の限定：20:3後半

5. 千年王国 20:4～10

- a. 聖徒たちの統治：20:4～6
- b. サタンへのさばき：20:7～10

6. 死者たちへのさばき 20:11～15

- a. さばきの場面：20:11～12前半
- b. さばきの経過：20:12後半、13
- c. 有罪の宣告：20:14、15

7. 新しいもの 21:1～8

- a. 新しい創造：21:1
- b. 新しいエルサレム：21:2
- c. 神との新しい交わり：21:3、4
- d. ヨハネへの神の結びの言葉：21:5～8

VII. 第四の幻の系列への補足の幻：花嫁——その栄光 21:9～22:5

導入 21:9～10

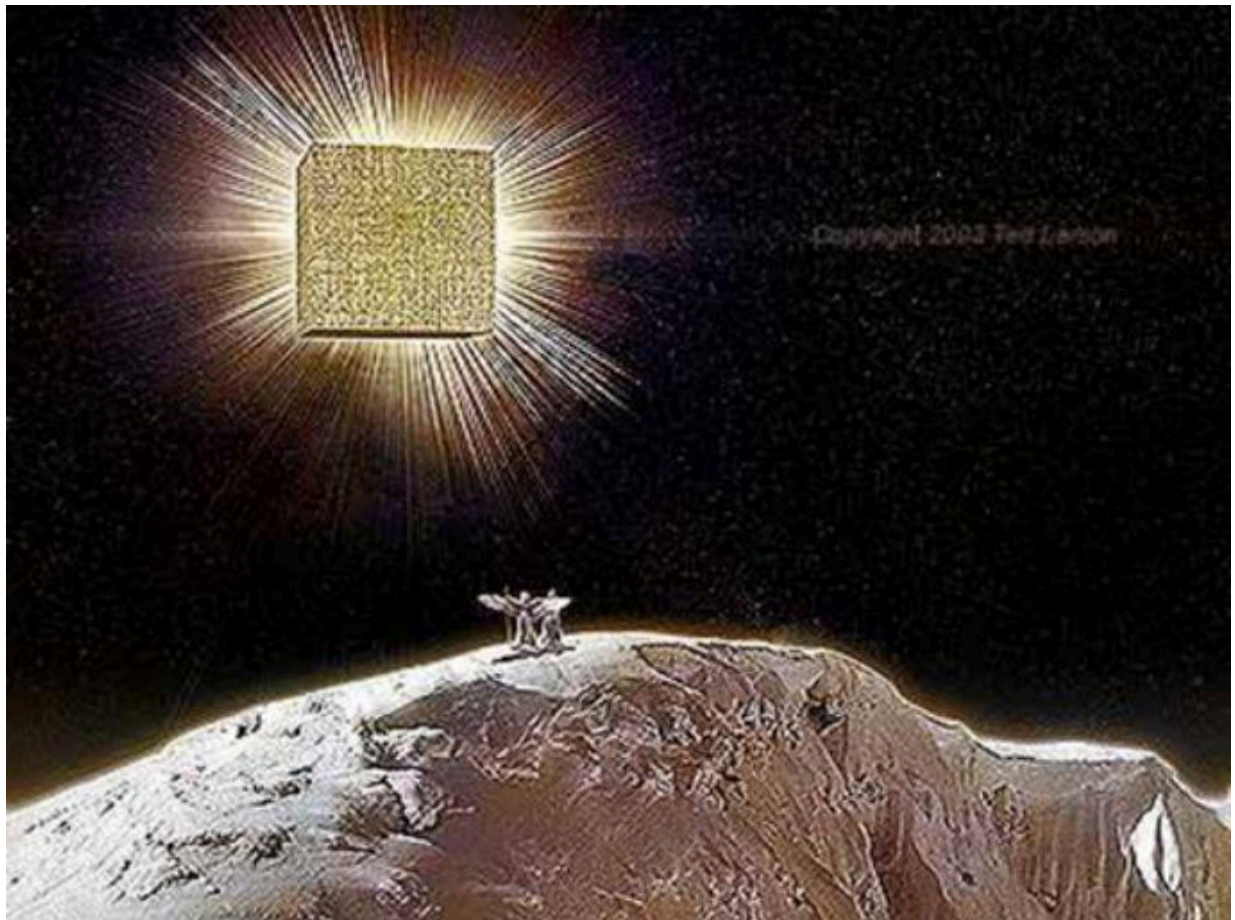
都の姿 21:11～27

1. その輝き（その栄光）：21:11
2. その外観 21:12～14
3. その寸法：21:15～17

4. その建材（美しさ、尊さ）：21:18～21
5. その聖所：21:22
6. その光：21:23
7. その住民：21:24～27

都の住民の生活 22:1～5

1. その水：22:1
2. その実：22:2前半
3. その健やかさ：22:2、3前半
4. その導き：22:3
5. その神礼拝：22:3、4
6. その光：22:5
7. その務め：22:5後半



手紙の結び 22:6～21

このメッセージについての七つの言葉 22:6～19

1. それは真実である。22:6前半
2. それは今に関わる。22:6中ほど、7前半

3. それは守るべきものである。22:7
4. それは重要である：22:8～15
5. それはイエスから出たものである：22:16
6. それは伝道的である：22:17
7. それは変えてはならない：22:18、19

イエスの最後の言葉 22:20前半

結びのあいさつ 22:20、21

トーマス・イエッテル (Thomas Jettel) による

16. 黙示録の構成の一つの可能性

箇所		章と節	内容
1:1～8	プロローグ	1～3	序文
			1、2 表題 3 祝福の言葉
		4～8	導入
			4～6 恵みを祈るあいさつとキリストの賛美 4a 呼びかけ、4b～5a 祝福の祈り 5b～6 賛美／頌栄 7～8 主題（ドラマ）の幕開け 7 （この書の）主題／標語 8 神である主：今おられ、昔おられ、やがて来られる方
1:9～3:22	第1幕、または単元、またはサイクル	試練と評価の中にある地上の教会	
		1:9～20	前奏（プレリュード）召命の幻：諸教会を評価する方としての栄光のキリスト
		2:1～3:22	小アジアの七つの地域教会への七つの手紙 エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルデイス、フィラデルフィア、ラオディキア
4:1～8:1	第2幕、または単元、またはサイクル	さばきの準備と開始	
		4:1～5:14	前奏：創造主と小羊の御座の幻

箇所		章と節	内容
		6:1～17	七つの封印が解かれる
		7:1～17	間奏（インターラード、挿入部分）（証印を押された十四万四千人、大群衆）
		8:1以下	第七の封印
8:2～ 11:18	第3幕、または単元、またはサイクル	七つのラッパ	
		8:2～6	前奏（天の香の祭壇の幻）
		8:7～9:21	七つのラッパ（のさばき）
		10:1～11:14	間奏（二人の証人）
		11:15～18以下	第七のラッパ——キリストの世界支配が来た。
11:19～ 14:20	第4幕、または単元、またはサイクル	神とサタンの大いなる戦い	
		11:19～12:12	前奏（天の幻：契約の箱） 女と子ども
		12:13～13:18	サタンの三位一体： 12:13～18 天の竜、古い蛇 13:1～10 海の怪物 13:11～18 地の怪物
		14:1～5	間奏（小羊と、証印を押された十四万四千人）
		14:6～13	三重の御使いのメッセージ：（永遠の福音、バビロンは倒れた、永遠のさばきの予告）
		14:14～20以下	後奏（キリストの到来のさばきの幻） 全地の穀物の刈り入れ／ぶどうの収穫
15:1～ 16:17	第5幕、または単元、またはサイクル	地に住む者たちへの七つの鉢のさばき	
		15:1～16:1	前奏（神殿の幻）
		16:2～17以下	神の憤りを完成させる七つの鉢のさばき
		16:15	間奏（祝福の言葉）
16:18～ 19:10	第6幕、または単元、またはサイクル	大淫婦バビロンへの刑罰のさばき	

箇所		章と節	内容
		16:18～17:3a	前奏（第七の鉢の御使い）
		17:3b～18	バビロンの奥義と第一の獣とのつながり
		18:1～24	バビロンの滅亡
		19:1～10以下	後奏（天での歓呼——大淫婦バビロンとは対照的な、小羊のまことの花嫁）
19:11～21:1	第7幕、または単元、またはサイクル	三重の最後のさばき	
		19:11～18	前奏（キリストが現れる——開かれた天）
		19:19～21	海の怪物・地の怪物との戦いと、それらへの最後のさばき
		20:1～10	竜すなわちサタンの千年の幽閉、キリストの千年の統治、千年期、最後の反乱
		20:11～15	白い御座：死者たちへの最後のさばき
		21:1以下	後奏（新しい天と新しい地）
21:2～22:5	（第8）最終幕とクライマックス	完成に至ったイエス・キリストの教会	
		21:2～10a	前奏（鉢を持つ御使いの一人）
		21:10b～22:5	新しいエルサレム、新しい天と新しい地の幻
22:6～21	エピローグ	6～9	結び
		10～20	あとがき
		21	祝福

ロルフ・J・ペーラー（Rolf J. Pöhler）による

見よ、彼らは葬られた、
世に掟を与えた者たちは。
その言葉は残らなかった。
彼らの家は瓦礫となり、
土から掘り出された貨幣も、
もはや通用しない。
彼らの名は響きを失い、
彼らの歌は歌われず、
彼らの国に人影はない。
彼らの印は砕け散り、

彼らの言葉は語られず、
 彼らの法はとうに廃れた。

イエスの御名は立ち続け、
 イエスの御国は滅びない、
 その戒めはとこしえに。
 イエスの言葉にすべては退き、
 死も彼には届かない。
 イエスは永遠に治められる

17. (不) 聖なる三位一体 12～14章

神の三位一体	サタンの三位一体
父	天の竜
子に力と御座を与える 2:28 3:21 12:5	「獣」に力と王座を与える 13:2、7
子	海から上る第一の獣
ミカエル＝「だれが神のようであろうか」 12:7	「だれがこの獣に比べられるだろうか」 13:4
小羊 5:6以下 11:1以下	怪物／混成の獣 13:2
七つの角を持ち 5:6	十本の角を持ち 13:1
多くの冠と 14:14 19:12	十の冠と 13:1
(尊厳ある) 名を持つ 19:12、16	(冒瀆の) 名を持つ 13:1
三年半、地上で働く	三年半、地上で荒れ狂う 12:6、14 13:5
致命的な傷を受ける 5:6、12	致命的な傷を受ける 13:3、12、14
昔おられ、今おられ、やがて来られる 1:4、8 4:8 11:17	かつていたが、今はおらず、また来る 17:8、11
復活を経験する 1:18	復活を経験する 13:3、12、14
即位を経験する 3:21 5:12 12:5	即位を経験する 13:2、7
天に住む者たちに礼拝される 5:8以下 7:10 12:10 15:2 ～4 22:3	地に住む者たちに拝まれる 13:4、8
証印を帯びた者たちによって 7:3 14:1	刻印を帯びた者たちによって 13:16 19:20
勝利者であり、勝利を得る方 5:5	勝利者であり、打ち勝つ者 13:7
聖徒たちのために戦う 19:11以下	聖徒たちに対して戦う 13:7
神の名によって語る 19:13	竜の名によって語る 13:5

神の三位一体	サタンの三位一体
聖霊	地から上る第二の獣
まことの預言者（の霊） ヨハネの福音書14:16～26 15:26 16:5～15参照	偽預言者（の霊） 黙示録16:13
キリストの代理である	獣の代理である 13:12
	小羊のような角を持つ 13:11
小羊のように語る	竜のように（あの竜のように）語る
人々を小羊への礼拝に導く	人々を惑わして獣を拝ませる 13:12、14
天から火を降らせる 使徒2:3	天から火を降らせる 13:13以下
いのちを与える 11:11	いのちを与える 13:15
神の証印 ＝小羊の名を授ける 7:1以下 14:1	サタンの刻印 ＝「獣」の名を押しつける 13:16～18

ロルフ・J・ペーラーによる

18. 黙示録におけるキリストとその御名

	御名	回数	黙示録の聖書箇所
1	イエス・キリスト	4	1:1、2、5、9
2	忠実な証人	1	1:5
3	死者の中から最初に生まれた方	1	1:5
4	地の王たちの支配者	1	1:5
5	アルファでありオメガ	3	1:8、21:6、22:13
6	イエス	8	1:9、12:17、14:12、17:6、19:10、10、20:4、22:16
7	主	2	1:10、12:13
8	人の子のような方	2	1:13、14:14
9	最初であり最後である方	3	1:17、2:8、22:13
10	生きている者	3	1:18、4:9、10

	御名	回数	黙示録の聖書箇所
11	右手に七つの星を持つ方	1	2:1
12	鋭い両刃の剣を持つ方	1	2:12
13	目を持つ神の子	1	2:18
14	明けの明星	2	2:28、22:16
15	神の七つの御霊を持つ方…	1	3:1
16	聖なる方、真実な方…	1	3:7
17	アーメンである方	17	3:14
18	忠実で真実な証人		3:14
19	神による創造の初めである方	1	3:14
20	ユダ族から出た獅子	1	5:5
21	ダビデの根	2	5:5、22:16
22	小羊	27	5:6、8、12、13、6:1、16、7:9、10、14、17、12:11 13:8、14:1、4、4、10、15:3、17:14、14、19:7、9、21:9、14、22、23、27、22:1、3
23	彼らの主（証人たちの）	1	11:8
24	主のキリスト	2	11:15、12:11
25	男の子…	1	12:5
26	男の子ども	1	12:13
27	雲に座っておられる方	2	14:15、16
28	主の主	2	17:14、19:16
29	王の王	2	17:14、19:16
30	忠実また真実	1	19:11
31	神のことば	1	19:13

	御名	回数	黙示録の聖書箇所
32	キリスト	2	20:4、6
33	御座に着いておられる方	1	21:5
34	初めであり終わりである方	2	21:6、22:13
35	ダビデの根から出た若枝	1	22:16
36	主イエス	1	22:20
37	主イエス・キリスト	1	22:21
		89	

出典：ヴェルナー・ミュッハー（Werner Mücher）, Die Offenbarung

19. 始まりと終わり——モーセとヨハネ

聖書の始まりと終わりの間には、数多くのつながりがあります。それらは、聖書が一つの全体であり、一人の著者と一つの計画を持っていることを私たちに示しています。

始まりに	終わりに
創世記1:1 はじめに神が天と地を創造された。	黙示録22:13b わたしは初めである…
創世記1:1 天と地。	黙示録21:1 また私は、新しい天と新しい地を見た。
創世記1:2 闇が大水の面の上にあり、	黙示録22:5 もはや夜がない（黙示録21:25参照）。
創世記1:3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。	黙示録21:23 神の栄光が都を照らし、小羊が都の明かりだからである。
創世記1:10 水の集まった所を神は海と名づけられた。	黙示録21:1 もはや海もない。
創世記1:14～16 …地を照らすための太陽と月。	黙示録21:23 都は、これを照らす太陽も月も必要としない。
創世記1:16 また星も。	黙示録22:16 わたしは輝く明けの明星である。
創世記2:4、5 造られ、作られたすべてのもの。	黙示録21:5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」
創世記2:9 園の中央にあるいのちの木。	黙示録22:2 都の大通りの中央にいのちの木がある。

始まりに	終わりに
創世記2:10 一つの川がエデンから出て、園を潤していた。	黙示録22:1 水晶のように輝く、いのちの水の川。それは神と小羊の御座から出ていた。
創世記2:11 ハビラの全土。そこには金があった。その地の金は良い。	黙示録21:18 都は透き通ったガラスに似た純金でできていた。
創世記2:12 宝石。	黙示録21:19 都の城壁の土台石は、あらゆる宝石で飾られていた。
創世記4:17 カインが建てた町。	黙示録21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のもとから、天から降って来るのを見た。
創世記2:15 神と人との交わり。	黙示録21:3 神は彼ら（人々）とともに住む。
創世記2:21～23 花嫁がその夫のもとに連れて来られる。	黙示録21:2 夫のために飾られた花嫁のように。
創世記3:1 蛇が欺く者として活動を始める。	黙示録20:10 諸国の民を惑わす古い蛇は、火と硫黄の池に投げ込まれた。
創世記3:4 偽りが入り込む。	黙示録21:27 忌まわしいことや偽りを行う者は、決して都に入れない。
創世記3:7 彼らは自分たちが裸であることを知った。それで、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。	黙示録19:8 花嫁は、輝くきよい亜麻布をまとうことが許された。その亜麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。
創世記3:7 人類は失われた。	黙示録21:24 諸国の民は救われる。
創世記3:8 人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。	黙示録21:3 見よ、神の幕屋が人々とともにある。
創世記3:17～19 労苦と働きが課せられる。	黙示録21:4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。悲しみも、叫び声も、苦しみもない。
創世記3:19 死が定められる。	黙示録21:4 もはや死はない。
創世記3:17 のろいが宣告される。	黙示録22:3 もはや、のろわれるものは何もない（のろいはもはやない）。
創世記3:15 大いなる約束。	黙示録20～22章 約束は成就した。

出典：雑誌「KOMM」2012年1月号

20. 参照した注解書

Allen, James, Die Offenbarung, Was die Bibel lehrt, Dillenburger, 1999

Baines, T.B., The Revelation of Jesus Christ, London, 1905

Barclay, William, Das sagt der Auferstandene, Kassel, 1967

Beale, Gregory K., The Book of Revelation: A Commentary on the Greek Text, Grand Rapids, 1999

Dennet, Edward, The Vision of John in Patmos

Dönges, Dr. Emil, Was bald geschehen muss, Dillenburg, 1985

Frey, Hellmuth, Das Ziel aller Dinge, Das erweckliche Wort, Lahr-Dinglingen, 1977

Grant, F.W., Numerical Bible, New Jersey, 1978

Gregg, Steve, Revelation, Four Views, A Parallel Commentary, Nashville, 1997

Guthrie, Donald, New Testament Introduction, Don Mills 1970

Hartenstein, Karl, Der wiederkommende Herr, Stuttgart, 1948

Hausoul, Raymond R., Openbaring, <http://bijbelstudie.110mb.com/index.php>, 2009

Hinkelmann, Frank, Die sieben Sendschreiben der Offenbarung, Nürnberg, 2004

Keck, Erwin, Die Offenbarung, Route 66 – Quer durch die Bibel, <http://www.ewaldkeck.de/downloads/route66.html>

Jettel, Thomas, Gedanken zur Gliederung des Buches der Offenbarung, 2010, 未刊行原稿

Ladd, Georg Eldon, A Commentary on the Revelation on John, Grand Rapids, 1972

Johnson, Dennis E., Triumph of the Lamb, New Jersey, 2001

Kelly, William, The Revelation, London, 1901

Ouweneel, W.J., De Openbaring van Jesus Christus, Deel 1 en 2, Vaasen, 1988

Peters, Benedikt, Geöffnete Siegel, Berneck, 1991

Poythress, Vern S., The returning King, New Jersey, 2000

Rossier, Henry, Die symbolische Sprache der Offenbarung, Neustadt, 1972

Smith, Hamilton, Die Sendschreiben an die sieben Versammlungen, Interlaken

Tenney, Merrill C., Die Welt des Neuen Testaments, Marburg, 1979

Trail, Ronald L. AN EXEGETICAL SUMMARY OF REVELATION, SIL International, Texas, 2008